



国際ロータリー第 2620 地区(静岡・山梨)  
米山記念奨学生学友会

会報 Vol.13 2021-22 年度



撮影: 陳興華會員

2022 年 5 月 発行

# 目次

(敬称略)

- 1、After コロナよりも With コロナを見据えて (会長あいさつ).....青山 チャリット
- 2、どこかでもう一つの扉が開く (ガバナー寄稿).....小林 聡一郎
- 3、米山学友はパートナーであり鏡 (委員長寄稿).....柳場 文彦
- 4、贈る言葉—奨学生の皆さんへ.....米山奨学生カウンセラー 大塩 秀樹
- 5、米山奨学生からの謝辞.....米山奨学生 王 騫  
.....米山奨学生 レー チュオン ロク
- 6、コロナ禍の中の楽しみ.....米山奨学生 ファム ゴック アン
- 7、今年度の活動記録 (写真)
- 8、世話クラブ創立 20 周年に寄せて (米山学友寄稿).....蔡 遣
- 9、2021-22 年度 期間終了した米山奨学生一覧
- 10、2022-23 年度 新規・継続米山奨学生一覧
- 11、2021-22 年度 学友会理事役員
- 12、2022-23 年度 主な行事予定

表紙写真：陳 興華 (中国出身、2005-06/パワー浜松 RC)

# 1. After コロナよりも With コロナを見据えて

米山記念奨学生学友会長

青山 チャリット (スリランカ出身、2006-08/静岡日本平 RC)



「学友会会報第13号」をお届けできることを嬉しく思います。

新型コロナウイルスの猛威により世界的に不安と困難な状況が広がって早くも3年目に突入。様々な行動制限や集団活動自粛が続いている中で我々学友会は感染対策を実施しながら可能な限り活動を続けて来ました。

本年度を振り返ってみますと、7月には通常総会、10月に三保松原海岸清掃活動、奨学生の期間終了式、新規奨学生の研修会などが主な活動でした。その中でも新型コロナウイルスの影響を受け、ボランティア活動に参加する団体が少なくなった中で行った三保松原海岸清掃活動は有意義な活動となりました。本年度の活動期間は残りわずかではありますが、やり残している目玉活動としてスリランカの子供たちへの文房具寄付活動があります。委員会を含めロータリアンの皆様のご協力のお陰で、目標としていた募金額に達することが出来ました。しかしスリランカの政治情勢が不安定のために贈呈時期が保留としていて、安全にスリランカへ渡航が出来次第、実行する予定です。

さて、7月から新しい年度の始まりです。次年度もコロナによる制限された1年になるか、制限がない1年になるかで、我々の活動方針も変わってきます。海外ではコロナが完全に終息していないにも関わらず、ワクチン接種やウイルス自体の弱体化の理由でほとんどの制限が撤廃しています。4月に仕事でヨーロッパを訪問した時に現地では入国制限や行動制限が全くなく、マスク着用している人いなかったのも、まるでコロナ前の世界に戻った感じでした。日本はまだ

だそのレベルまで至っていないが、徐々に制限緩和する方向へ向かっています。今年は3年ぶりに行動制限がないゴールデンウィークがマスクでも大きな話題となりました。世間ではAfter コロナという言葉もよく耳にします。

私は次の1年間も After コロナ1年間というよりも、制限緩和された With コロナ1年間として捉えています。

新型コロナウイルスもインフルエンザと同じ扱いになる日もそう遠くないと思うので、新しい年度はコロナウイルスと上手く共存しながら対面活動をしていく1年間にしたいと思います。現在、学友会活動用に専用のポロシャツ制作を進めていて、次の総会時に初披露を予定しております。同じ制服で活動することが待ち遠しいです。皆さんもご自分の健康や体力の保持に十分気をつけて、近い将来の活躍に備えましょう。様々なイベントで交流を深める機会を楽しみにしています。

最後に、小林聡一郎ガバナー、柳場文彦地区米山記念奨学委員長にはご多忙の中、寄稿を頂きまして厚く御礼申し上げます。



鐘佑希理事 (左)、李洪理事 (右) とのトリプルショット

## 2.どこかでもう一つの扉が開く

### 地区ガバナー

#### 小林 聡一郎（甲府北ロータリークラブ）

「一つの扉が閉まれば、何処かでもう一つの扉が開く」と言われます。自分にとって目の前の扉が閉まったと思う時でも、どこかで希望に繋がる扉が開くというこの言葉は救いです。でも、残念なことにハッキリとそれに気付かないのです、私達は。失意の時は尚更で、スッと開いた音も聞こえなければ、射して来た僅かな光にも気付かない。でもそれが普通だと思います。「人は見たいものしか見ない」とも言われますので、後になって「ああ、あの時だったか」と思えるようなこともあります。今私たちが生活しているこの社会も、大きな流れの中で、どこかの時点で一つの扉が閉まり、そしてどこかの扉が開いたから、そういう状況下でもこれまで多くの人達が、より良い選択をしてきて今の社会があるのだと思います。

今回のコロナパンデミックで、今までのやり方や常識的だった扉が半ば強制的に閉まり、そこから新しい生活様式やデジタルで繋がるコミュニケーションという別の扉が開きました。テレワークやネット会議などもそうです。大学生のonline授業なども別の扉が開いた例です。そういう新しいツールも手に入れることができたと考えれば、直接対面ではなくてもコミュニケーションの選択肢が広がったことになります。

さて、皆さんはどうでしょう。ご自身に問うてみて、何か転機になることがありましたか？米山奨学生に選ばれたことは扉が開いたことだったですか？米山奨学生は、教授推薦とロータリ

アン面接選考を経て奨学生となることのできる選ばれた方々です。クラブとの交流、カウンセラーのお世話になりながら、学業を究めることはもちろん、母国と日本との親善橋渡し役も担っています。そして奨学金受領期間が終わったら、次は米山学友会に入ることを勧められます。

米山学友会という扉からすでに中にはいった学友の皆さんは、その繋がりに心地よさを感じていますか？互いに助け合い、力になりあい、信頼できる仲間として意識していますか？米山というお名前を冠している米山学友会は、米山梅吉氏のような清らかな心、清らかな目をもって、互いを励まし合い、他の人のお役に立とうという組織です。「そういえば米山学友会に入った時が、私のもう一つの扉が開いた時だった」と思えたらいいですね。学友会というロータリーの希望の扉の中で活動すると、人生の「どこでもドア」をきっと見つけられますよ。



3月19日の米山奨学生期間終了式にて（1列目中央）

### 3. 米山学友の皆さんはパートナーであり鏡

地区米山記念奨学委員会委員長

柳場 文彦（山梨ロータリークラブ）

私から電話をかけます。「青山学友会長、これこれこうですが、どうでしょうか？」とお聞きすると「柳場委員長、大丈夫ですよ！問題ありません。協力させてください！」と直ぐに返事がきます。これは、青山チャリット学友会長に事業への協力を打診した時の返事です。米山記念奨学委員会は年間に何度も研修や事業を開催します。そのたび、委員会メンバーだけでは回せない部分を学友会の皆さんにお手伝いいただきます。この一年、なんとも気持ちの良い返事で何度も助けてくれました。私は思います。「あれ？ロータリー米山記念奨学事業はロータリアンが奨学生や学友の皆さんをサポートしてあげる立場なのに、助けてもらってばかりだなあ…」と。振り返ると前年度の学友会長であった上野佳子さんもまったく同じ対応だった事を思い出しました。

私は、なぜ米山学友の皆さんはこんなにも協力を惜しまないのだろうかと考えます。

本事業は戦後の1952年当時に国際平和を願った日本のロータリアンたちが「こんな時だからこそ何かできることはないだろうか」と模索し、心を合わせて取り組みを始められましたが、この事業の成果や本質は、米山奨学生を経験した

彼らが学友となって社会に出たのちに開花するものだとお聞きした事があります。数年前のホームカミングで、よねやま親善大使のウエイさんが素敵な言葉を使っていたことを思い出しました。「報恩・奉仕・繁栄」 恩を知る。感謝の気持ちを持って恩返しをする。職業を通じて人々のため、社会のためになる。報恩と奉仕を実践することによって、自分、会社、社会の繁栄を目指す。そして、人間の生きる目的は、自ら成長して人々に尽くすことだと話されていました。ロータリーはその集大成であるとも…。学友の皆さんの普段何気ない言葉やお手伝いいただく姿勢を見ますと、ロータリアンも忘れてしまいそうな感謝のころ、人々に尽くす大切な気持ちを気づかせてくれます。そんな米山学友の皆さんは私たちの大切なパートナーであり、ロータリアンである自分自身を見つめ直す鏡でもあるのです。私は学友の皆さんと一緒に活動できることが嬉しくてたまりません。これからも世界平和を願いながら、共に成長し、人々に尽くしていけるよう頑張っていきたいと思います。

一年間ご協力ありがとうございました。  
感謝を込めて。



2021年10月三保松原海岸清掃活動（左一）

## 4. 贈る言葉——奨学生の皆さんへ

米山記念奨学生カウンセラー

大塩 秀樹（沼津北ロータリークラブ）

今日こうして米山記念奨学生の皆様が、無事奨学期間の終了を迎えられますことを心よりお喜び申し上げます。

奨学生の皆さんはここで、1年或いは2年の奨学期間を終了されますが、何れもスタートの時から既に新型コロナウイルスの感染が拡大している中での奨学期間の始まりとなりました。今日に至る間に、何度も感染の拡大やおさまりを繰り返し、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出され、行動の制限を余儀なくされました。この僅か2年余りの間に私たちの生活様式をはじめ、あらゆる常識が一変してしまいました。人数の集まる会合は中止や規模の縮小がされ、大学の授業や様々な会議もリモートで行なわれることが当たり前の世の中となりました。リモートによる会議などは合理的な仕組みではありますが、人と人が触れ合うコミュニケーションの機会が得られにくくなってしまいます。特に大学生の皆さんにとって、本来、学生生活で一番の財産ともいえるべき、友人と過ごす時間や新たな友人を作る機会が極端に限られてしまっていることは大変残念に思います。

このコロナ禍での生活は、地元で暮らしている私たちですら大きな不安やストレスを感じているのですから、遠く親元を離れ、慣れない日本での生活をされている留学生の皆さんにとって、大変辛い状況であったことは察するに余りありません。

私がカウンセラーを務めさせて頂いた王<sup>オウケン</sup>君には、出来る限り寄り添い、サポートするように努めてまいりましたが、コロナ禍の中、私の理想とする対応が出来ず、忸怩たる思いであります。おそらく何れのロータリークラブにおかれまし

ても、この2年の間、大変苦しい思いをされて来られたのではないかと思います。我がクラブにおきましても、例会が長期にわたって休会となることが何度もあり、更には、奉仕活動やクラブ会員とのコミュニケーションを拡げる機会である親睦のイベントも多くが中止となってしまいました。その結果、王君とクラブ会員との交流の機会もごく限られたものとなってしまいました。そうした少ない例会の開催機会ではありましたが、例会に参加してくれる王君には、多くのメンバーから常に声が掛けられ、王君を気遣ってくれていることが伺えました。それに応えるように、王君のスピーチも月を重ねるごとに磨きが掛けられ、今年度のクラブ会長からは「自分の会長挨拶よりも王君のスピーチの方が出来が良い」と言わしめるほどでした。私達はこうして成長してゆく王君の姿を微笑ましく見てまいりました。皆さんは、ここに至るまでの間に様々なハードルを乗り越えられ、今日を迎えられているのだと思います。この経験は必ず皆さんの将来につながるものとなるでしょう。是非、誇りをもってこれからの生活を歩んで頂きたいと思います。

これで皆さんの奨学金の受給は終わりますが、皆さんのカウンセラー、所属クラブのメンバー、そして全国のロータリークラブのメンバーはこれからもずっと皆さんの応援団です。是非ご卒業後もクラブの例会や親睦行事に気軽に遊びに来て近況を聞かせてください。

皆さんのこれからの人生が幸多く、輝くものとなることを心よりご祈念を申し上げて私の贈る言葉とさせていただきます。

（3月19日米山奨学期間終了式にて）

## 5. 米山奨学生からの謝辞

### 米山記念奨学生

#### 王 騫（中国出身、2020-22/沼津北 RC）

皆様、こんにちは。奨学生として沼津北ロータリークラブに所属しており、日本大学大学院国際関係研究科の王騫です。オミクロン株の席卷により、ロータリークラブの例会、学校行事、学友会の交流会などほぼすべての活動が中止となってしまう、辛い思いをする日々ですが、こうして我々奨学生の終了式を迎えることができました。悲しい気持ちではなく、米山奨学生になって良かったという嬉しい気持ちでお話させていただきます。

過去の二年間に感染拡大の原因による水際対策の強化で帰国できないという今まで経験したことのない心理的困難に直面する私はロータリーからたくさんの応援と励ましを得ています。毎月の奨学金の受給によって私たちの留学生生活が支えられることはもちろん、ロータリアンと学友会の皆様が誰よりも文化の違う留学生の私たちに文化の理解と応援を与えてくださっています。このように応援してくださるロータリーのおかげで、私は来日留学して本当に良かったと非常に強く思うようになり、自分の学業目標も達成でき、大学院進学を成し遂げました。

成長した私を見守ってくださった大塩秀樹さんに特別に感謝したいと思います。過去の二年間に私のカウンセラーである大塩さんはまるで父親のように私のことを世話してくださいました。クラブ支援制度の利用による奨学生期間の延長、プロレス試合観戦のお誘いや人生相談など数え切れないほど大塩さんに世話していただきました。つい最近、就職活動に参加する私は大塩さんに綺麗に証明写真を撮れる写真館をご紹介します。そこで凛々しくて立派な証明写真を手に入れた私は写真のスタッフさんに

「お会計お願いします。」っと声を掛けると、「もう大塩さんが払ったよ、息子さんだからって」と返事をされました。

このような恩恵を受ける私はどうすれば恩返しできるのかと常に考えております。私が思い出すのは「恩返しは今じゃなくてこれからです」という学友会の篠原さんのお言葉です。未来がどうなるのか誰にも不安です。私は就職活動の最中で、内定をもらえるかどうか非常に心配していますが心の中でずっと信じてることがあります。それは努力する自分がいつか未来に社会に貢献できる人として援助が必要な人に手を貸すことが出来るようになることです。これは私がロータリー米山奨学生になってから培った新たな価値観であり、人生の大きな収穫の一つとしてこれからも大切にしていきたいと思います。

複雑な世界情勢の中ですが、平和を信じる私たち米山奨学生はこれからも母国と日本との友好関係の促進に努力しましょう。そして私たちの人生が順調に進むよう、お祈りいたします。

ありがとうございました。



大塩秀樹カウンセラー（左）とのツーショット

## 米山記念奨学生

### レー チュオン ロク (ベトナム出身、2020-22/甲府南 RC)

本日は私たち(奨学期間終了生)のためにこのように盛大な終了式を開いていただきましてありがとうございます。また、先ほどは第2620地区の小林聰一郎ガバナーをはじめ来賓の皆さん、現役の奨学生の皆さんからあたたかいお言葉をいただき、胸が熱くなる思いがしております。本当にありがとうございました。

私はロータリー米山記念奨学生として採用され、すでに2年が過ぎようとしております。自分の夢をかなえるために希望を持ち日本へ留学に来ました。しかし、現実には親からの仕送りがなく、日本での生活と学業を両立するのが非常に大変で厳しいものでした。そんな日々が続く中、私は幸いなことにロータリー米山記念奨学会に出会いました。奨学金を受け取ることで経済的な不安が減り、自分の研究に専念することができるようになりました。それに、学内イベントにも参加する時間が増え、充実した大学生活を送ることができました。また経済的な支援以上に嬉しかったのは、コロナ蔓延の大変な時期の中、定期的な交流会や海岸清掃などのイベントを設けていただき、留学生同士との交流や経験交換により、新たな友達を作ることができました。また、カウンセラー制度と配属先クラブの例会参加を通して、社会で成功されている人生の先輩方と触れ合うおかげで、自分の視野が広がり、日本文化への理解と関心を高めることもでき、忘れることのできない思い出になっております。

今日、私たちはロータリー米山記念奨学期間を終了致します。本音を明かしますと、この先、

私たちの前に広がっている世界を見て、不安に身がすくみ、震えるような思いがする一方で、期待に胸が膨らみ、わくわくするような思いも致します。一人一人の不安は、友と手を取り合うことで勇気と力に変えて、胸を張って世界平和維持に貢献することこそが、私たちロータリー米山奨学生の使命だと思えるようになりました。困難にも勇気をもって立ち向かうための剣と楯をロータリーで得たような気がします。

最後になりますが、小林ガバナーをはじめ、諸会員、カウンセラーの皆さん、本当にお世話になりました。私たちは必ず皆さんから受け取った「心」を忘れずに、それぞれの進路へと旅立っていきます。どうか暖かく見守ってください。そして、時には変わらぬご指導をお願いいたします。奨学生を代表する一人として、ここでもう一度心から感謝の言葉を申し上げ、謝辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。



左から米山記念奨学委員会渡辺郁副委員長、筆者、小林聰一郎ガバナー@奨学期間終了式



## 6. コロナ禍の中の楽しみ

### 米山記念奨学生

#### ファム ゴック アン (ベトナム出身、2020-22/浜松南 RC)

季節が巡り、ロータリーファミリーと一緒に桜の満開を迎えたのは3回目となりました。振り返ってみると、私が米山奨学生になったのはちょうどコロナ感染症が流行り始めた頃で、人生には様々な変化や困難がありました。しかし、今の私の記憶に残っているのは、ロータリーの皆さんの笑顔と楽しい思い出でいっぱいです。

奨学生になった最初の1年間は、大学の授業が全てオンデマンド配信で行われ、必要なとき以外はなるべく外出しないようにしていました。家で引きこもっていることが多かったため、例会は私の毎週の楽しみでした。出席回数は多くありませんでしたが、毎回多くの方とお話させていただき、いつも私の生活や勉強の状況を尋ねられました。短い言葉ですが、日本で一人暮らしをしている私には、何よりも温かい言葉でした。会話を通して、ロータリアンの皆様の知識の豊富さに憧れ、自分の中の価値観も少しずつ変わり始めました。これまで家族や社会から多くの恵みを受けていた私ですが、少しでも社会に貢献できるようになりたいと思いました。

2年目に入ってから、状況がなかなか改善されませんでした。このまま終わってしまうのかと不安でしたが、米山学友会が奨学生同士で交流する機会を作ってくださいました。数回しかありませんが、同じ米山奨学生ということもあるのかすぐ仲良くなり、初対面なのに兄弟のように楽しく過ごすことができました。出身地

も、専門も、言語も、何の共通点もない私たち奨学生を結びつけたのは、ロータリー米山記念奨学金だったのです。

この2年間で、多くのロータリアンや奨学生の皆様と出会い、私は大きく成長できました。私を含めて、2021年度の米山奨学生は、これからそれぞれの夢に向かって挑戦をしていきます。そのなかで、辛いことがあったり、困難が待ち受けていたりするかもしれません。しかし、私たち奨学生はきっと、どんな困難も乗り越えることができると信じています。なぜなら、私たちのそばには、ロータリーの家族がいるからです。



コロナ禍で例会が再開できない状況で、浜松南 RC のカウンセラーと中国の奨学生と交流する貴重な機会でした。

(左から：富田明さん、筆者、ベン ユウシンさん、堀内國夫さん)

## 7. 今年度の活動記録 (写真)



(1)	
(2)	(3)
(4)	(5)
(6)	

(1)~(3) 第13期通常総会 in 静岡市  
 (4)~(5) 三保松原海岸で清掃活動  
 (6) BBQ 懇親会



(7)	(8)
(9)	(10)
(11)	(12)
(13)	

(7)～(9)  
 米山奨学生の期間終了式 in 静岡市  
 (10)～(13)  
 新奨学生・世話クラブカウンセラーのオリエンテーション (長泉・甲府・浜松の三会場で分散実施)

## 8. 世話クラブ創立 20 周年に寄せて

米山学友

蔡 遣 (中国出身、2013-14/パワー浜松 RC)

2022年3月初旬、1通のSNSへの投稿がきっかけでパワー浜松ロータリークラブ創立20周年式典の開催を知りました。私は皆さまへ感謝の気持ちを伝えたく、同じクラブでお世話になった元米山記念奨学生7名(付表参照)と連絡を取り、ビデオレターを送った次第です。久しぶりに其々当時の思い出や近況を語り合い、思いの丈を込めて、皆の力で作りました。

私ども留学生の学生生活で糧となったのは米山記念奨学金独自のカウンセラー制度です。

「カウンセラー」は、生活に於いて個人が直面する悩みなどに対し相談に応じ、適切な指導・助言をする人、と辞書では定義されています。振り返るとパワー浜松 RC で人生経験豊富なロータリアンの方々に支えられた1年間は、留学生活の中で最も心強い1年でした。

私にとって今でも忘れられないのは小田木基行さんのカウンセリングです。就職活動で役員面接に悩んでいた時、浜松から静岡までわざわざ指導に来てくださいました。その際は普段と異なり「もっと深く考えて答えなさい」「ハキハキ話さない」、などと厳しく指摘を頂きましたが、そのお陰をもちまして無事第一希望の

会社に入社できました。入社から既に7年が経過しておりますが今後はより一層気を引き締め、小田木さんの応援を裏切らぬよう、精進して参ります。

同じくパワー浜松 RC にお世話になった他7名も私同様、世話クラブとの繋がりを一生のものとし、それぞれの想いを胸に生活を営んで参る所存です。

最後に、今後の米山記念奨学生学友会のさらなる躍進を期待いたします。

またパワー浜松 RC が25年、30年とますます繁栄されていかれますよう心よりお祈り申し上げます。(上海在住)



付表 (敬称略)



2017年5月、パワー浜松 RC 創立15周年式典にて

氏名	出身国	奨学期間	カウンセラー
陳 興華	中国	2005-06	小林 昭次
賀 新剛	中国	2011-12	河村 正隆、 竹林 克己
蔡 遣	中国	2013-14	小田木 基行
暢 婉君	中国	2014-15	中野 敬司
于 春蘇	中国	2015-16	村田 誠
薛 安琪	中国	2017-18	野田 みよ子
肖 英華	中国	2018-19	伊藤 勝人
サイピョウ-ミンマオ	ミャンマー	2019-21	藤田 光弘

## 9. 2021-22 年度 期間終了した米山奨学生一覧

(奨学生番号順、2021 年 9 月終了生含む)

氏 名	国籍	世話クラブ	日本国内居住地
レー チュオン ロク	ベトナム	甲府南 RC	山梨県
ファム ゴック アン	ベトナム	浜松南 RC	静岡県
王 騫 (オウ ケン)	中国	沼津北 RC	静岡県
ハサン エムディー マフムデュル	バングラデシュ	浜松中 RC	
崔 成烈 (チェ ソンリョル)	韓国	甲斐 RC	
董 清崑 (トウ セイギン)	中国	笛吹 RC	神奈川県
オン シハン	マレーシア	南アルプス RC	山梨県
陳 吉天 (チン キツテン)	中国	浜松中 RC	
王 雪艶 (オウ セツエン)	中国	長泉 RC	
李 重楼 (リ ジュウロウ)	中国	静岡西 RC	静岡県
グエン ティー アン ダオ	ベトナム	沼津西 RC	山梨県
フィン タン ティ	ベトナム	藤枝 RC	
彭 有興 (ペン ユウシン)	中国	浜松南 RC	東京都
何 婷 (カ テイ)	中国	静岡北 RC	静岡県
房 峻賢 (ファーン ジュインシェン)	台湾	掛川グリーン RC	静岡県
孫 浩波 (ソン コウハ)	中国	伊東西 RC	



# 10. 2022-23 年度 継続・新規米山記念奨学生一覧

(奨学生番号順)

氏名	国籍	世話クラブ
王 怡淵 (オウ イエン)	中国	甲府東 RC
方 子欣 (ホウ シキン)	台湾	甲府北 RC
辛 飛揚 (シン ヒョウ)	中国	甲府 RC
掲 姍姍 (ジェ シャンシン)	中国	山梨 RC
ジョセリン ネオ ワン ティン	マレーシア	静岡 RC
パタンドウング, スミルナ ウィラワンティ	インドネシア	富士 RC
ゴ ズン バン	ベトナム	浜松ハーモニーRC
許 允碩 (ホ ユンソク)	韓国	袋井 RC
陳 俊達 (チン シュンタツ)	中国	パワー浜松 RC
マドマン ソピダ	タイ	沼津 RC
張 弛 (チョウ チ)	中国	浜松西 RC
李 佳彤 (リ ジャトン)	中国	甲府西 RC
楊 鑫玉 (ヨウ キンギョク)	中国	甲斐 RC
王 成旭 (オウ セイキョク)	中国	甲府北 RC
ヴ ティ タオ	ベトナム	甲府南 RC
王 非凡 (オウヒ ボン)	中国	笛吹 RC
フヤル, ビシュヌ プラサド	ネパール	静岡日本平 RC
ヴィ ティ ゴック チン	ベトナム	三島 RC
李 江華 (リ ジャンファ)	中国	駿河 RC
朱 双彤 (シュ ソウトン)	中国	静岡西 RC
曹 鑫鑫 (ソウ キンキン)	中国	沼津西 RC
グエン キ カオ	ベトナム	浜松中 RC
崔 準城 (チェ ジュンソン)	韓国	浜松ハーモニーRC
李 旻玉 (リ ミンギョク)	中国	藤枝 RC
謝 斯成 (シャ シセイ)	中国	都留 RC
仇 英嬌 (キウ エイキョウ)	中国	伊東西 RC
劉 雅文 (リュウ ガブン)	中国	長泉 RC
張 恒森 (チョウ コウシン)	中国	浜松南 RC

## 1 1. 2021-22 年度 学友会理事役員

役職	氏名（出身国/世話クラブ）
会 長	青山 チャリット（スリランカ/静岡日本平 RC）
副会長	鄭 清楷（中国/静岡南 RC）
理 事	上野 佳子（中国/東京臨海東 RC、会計兼）
	金 相均（韓国/静岡 RC）
	鐘 佑希（中国/甲府 RC）
	ウデバラ（中国/清水 RC）
	李 洪（中国/横浜東 RC）
	古 益安（台湾/尼崎南 RC）
監 事	レバ チェン ゴック（ベトナム/甲府南 RC）
	林 双（中国/掛川グリーン RC）
	川口 尚史（米山委員、沼津柿田川 RC）

## 1 2. 2022-23 年度 主な行事予定

行事内容	実施予定日	場所
第 14 期通常総会	2022 年 7 月 3 日（日）	静岡市
新米山奨学生歓迎会	2022 年 8 月 13 日（土）	米山梅吉記念館
柿田川湧水地清掃	2022 年 9 月 3(土)-4(日)	柿田川湧水地公園
米山奨学生（9月生）期間終了式	2022 年 9 月 11 日（日）	未定
米山奨学生・カウンセラー研修会	2022 年 10 月 9 日（日）	未定
清掃ボランティア&懇親会	2022 年 10 月中旬-下旬	三保松原海岸
地区大会	2022 年 11 月 5(土)-6(日)	静岡市
米山奨学生期間終了式	2023 年 3 月 5 日（日）	未定
新米山奨学生・カウンセラー研修会	2023 年 4 月 2 日（日）	未定





国際ロータリー第2620地区  
Shizuoka Yamanashi  
米山学友会



事務局： 〒411-0941  
静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1  
公益財団法人 米山梅吉記念館 内

メールアドレス yoneyama2620@gmail.com

フェイスブック <http://www.facebook.com/Ry2620>

